福祉医療協の歴史とこれから ⑲

イエズスの聖心病院のあゆみとこれから

社会福祉法人　聖嬰会　イエズスの聖心病院
社会福祉課　小森　裕子

1．当院の設立

明治22（1889）年パリ外国人宣教会のジョン・マリー・コール神父は熊本に派遣され、貧しい人々や社会から疎外され人間らしい扱いをされていないハンセン病患者と出会い、その救済に着手されました。そのコール神父の要請を受け、「ショファイユの幼きイエズス修道会」より４名の修道女が派遣されました。彼女たちは、熊本市山崎町に居を構え、孤児救済及び病人の施療活動を開始し、それが現在の「熊本天使園」（児童養護施設）、「イエズスの聖心病院」となっています。

2．病院の沿革

明治22年11月１日	幼きイエズス修道会熊本支部創設 熊本市山崎町に居住、孤児療育及び病者訪問開始
明治28年６月	上林町に施療院・無料診療所を開設、ハンセン病患者の巡回訪問開始
明治31年10月20日	一般患者も対象とした無料診療所として奉仕を開始
明治42年９月	「診療所」を「聖心（せいしん）医院」と名称変更
昭和36年10月	「イエズスの聖心（みこころ）病院」と名称変更
平成６年11月1日	緩和ケア病棟（15床）認可（熊本で初めての認可）
平成８年４月	通所リハビリテーション「みこころデイケア」を開設
平成16年４月１日	上林町から現在の上熊本に新築移転 ホスピス病棟(22床)、療養病棟(65床)、通所リハビリテーション(20名)
平成19年	ISO9001:2000認証取得 療養病棟65床（医療保険適用27床、介護保険適用38床）
平成21年	居宅介護支援事業所開設、医療療養病棟65床
平成27年	機能強化型在宅療養支援病院

平成29年	ホスピス病棟37床、医療療養病棟38床
平成30年 9 月	日本医療機能評価機構から認定

3．病院の概要

○病床数　75床　ホスピス病棟37床（緩和ケア病棟入院料1）、医療療養病棟38床（療養病棟　入院基本料2）

○診療科目　内科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、居宅サービス　訪問診療、みこころデイケア、みこころ居宅介護支援事業所

○地域の特徴　熊本市西区上熊本にあり、JR上熊本駅、市電電停、バス停留所も近く、交通の便はよい。

4．病院の基本方針

基本理念　キリストの教えに根ざして
基本方針　一人ひとりを大切にします
援助指針　一人ひとりを大切にします
身体と心と魂の安らぎを目指します
地域社会の要請に応え、地域社会とともに歩みます
職員は研修・自己研鑽に励みます

5．事業の特徴

医療サービスとして、主にがんの患者さんを対象とするホスピス病棟、高齢者を中心とした医療療養病棟、外来、訪問診療を行っています。介護サービスとしては通所リハビリ、居宅介護支援事業所を持ち、居宅での高齢者を支えています。

当院ホスピス病棟は熊本で初めての緩和ケア病棟として平成6（1994）年に認可されており、地域の中でもホスピスといえば聖心病院と認知してくださる方が多くいます。終末期だけでなく、がんに伴う症状の緩和を必要とする方を広く受け入れ、入院、外来、訪問診療により、その方の希望する場所で、その人らしい生活を継続し、穏やかな時間を過ごすことができるよう支援しています。

また高齢者の慢性期の療養を支える医療療養病棟は主にがん以外の疾患の患者さん、通所リハビリ、居宅介護支援事業所で利用者さんを受け入れ、病や障害を持っている方に寄り添い、生活の質を保つことができるよう支援しています。

当院の特徴として、パストラルケア部の働きが挙げられます。現在は２名のシスターが在籍しており、患者さんを訪問し、一人ひとりの声に耳を傾け受け止め、話の出来ない方

みこころ病院全景

であっても寄り添い、祈りをもって支える支援を続けています。

新型コロナウィルス感染拡大により、医療現場は様々な試練を受けており、感染防止のために制約をせざるを得ない状況となっています。人生の終末期を過ごす方を支えることが多い当院にとっては、これまで家族など患者さんの親しい方々とのふれあいの時間が穏やかな入院生活を支える大きな部分であるとの認識から面会に制限がありませんでしたが、制限せざるを得ない事態となりました。ホスピス病棟は全室個室という環境で比較的感染対策がとりやすいことから制限をしても面会中止とせず、限られた短い時間ではあるが親しい方との面会を継続しています。しかし、残された時間が限られた中にあっては面会制限下での入院ではなく、自宅での療養を選ぶ方が多くなっています。その際に訪問診療として、夜間休日を含め、24時間365日対応しており、必要時に入院への切り替えがスムーズに行える体制ができています。

6．これから

基本理念、基本方針に「キリストの教えに根ざして　一人ひとりを大切にします」とあるように、人は神によって造られた個別的でかけがえないものであるという人間観を根底におき、その方が大切にしてもらっていると感じていただけるような関わりを目指しています。

治癒を望めない病とともに歩む方に寄り添い、心と身体と魂の安らぎを感じるような関わりを目指し、最期まで穏やかに過ごすためにできることをともに考えていける病院でありたいと思っています。

当院の始まりが４人のシスターによる貧しい人々やハンセン病患者さんへの施療活動だったことは現在でも受け継がれており、病気に加えて経済的な問題を抱える方や社会的な孤立の中にいる方が当院と繋がることで安心して生活できるような支援が必要です。その中で無料低額診療事業の活用がますます必要となってくると思います。

【ステンドグラスの説明】

ホスピス病棟から２階研修センターへの階段部分にステンドグラスが設置してあります。

そこに描かれているものにはそれぞれ意味があり、ホスピス全体を表現しています。

蝶：体を離れ天国へ旅立つ魂
蝶を養い育て天かけさせる薔薇：愛
虹：天国への橋
青い空：神の国、天国をイメージ

みこころチャペル

ステンドグラス